

 映画美学校

言語表現コース

ことばの学校

第6期 基礎科

募集要綱

2026

ことばという生きものの記録

ことばは生きものです、とはしばしば言われることです。

生き物であるからには、成長したり老化したり進化したり(退化したり)、変わっていったり変わらないままのところがあったり、元気な時もあれば調子が悪い時もある、機嫌とかもあったりする。

「ことばの学校」は、そんな生きものとしてのことばの生態を、あらためて捉え直すためのスクールです。

ことばは生きものなので、いわゆる生物多様性が見出せます。

つまり、たくさんの、別々の、色々な、ことばがある。

それは単語や語彙のことだけではない。文章と呼ばれる、ひとつつながりで(それ自体多様な)意味を成すことばの連なりも、ものすごくたくさんの別々で色々なものがある。

生物図鑑の頁をめくるように、言語表現の最前線で活動することばの使い手たちの講義に耳を傾ける。

そしてそこから、あなた自身の、あなたが他者や社会やあなた自身とかかわりを築いていくための、自分にカスタマイズされたことばを見つけ、自分のことばを育て始める、つまり、書くことへと向かっていく。

この学校は、ことばという生きものの新鮮さと、新たに出会うために生まれました。

第6期、多くの受講生をお待ちしております。

映画美学校言語表現コース ことばの学校 主任講師 佐々木敦



佐々木敦(批評家)

批評家。音楽レーベルHEADZ主宰。多目的スペース SCOOL 共同オーナー。映画美学校言語表現コース「ことばの学校」主任講師。早稲田大学、立教大学などで教鞭もとる。文学、映画、音楽、演劇など、幅広いジャンルで批評活動を行っている。『「書くこと」の哲学 ことばの再履修』(講談社現代新書)、『メイド・イン・ジャパン 日本文化を世界で売る方法』(集英社新書)、『成熟の喪失 庵野秀明と父の崩壊』(朝日新書)、「教授」と呼ばれた男 坂本龍一とその時代』(筑摩書房)など著書多数。

言語表現コース ことばの学校 とは

- 言語表現のさまざまなジャンルや形式に触れ、「自分が自分だからこそ書ける言葉」を発見し、獲得することを目指します。
- 基礎科と演習科（各半年間）に分けて募集。基礎科は全 16 名の講師による講義（16 回）と主任講師の佐々木敦による講義（4 回）の全 20 回の講義となります。各講師の「ことば」の考えを聞き、さまざまな「ことば」を習得します。
- 演習科は主任講師に加え 4 名の専任講師による課題講評が中心と、より実践的な講義となります（詳細は基礎科開講後に発表の予定）。
- 基礎科はオンラインで実施、演習科は対面とオンラインの併用で実施。遠方でも受講が可能です。
- 座学のほか、基礎科は主任講師、演習科は主任講師・講師による課題講評を受けることができます（正規受講生のみ）。
- より気軽に参加ができる聴講制度を導入。自分の好きなタイミングで講義を閲覧することが可能です（基礎科のみ）

正規受講生：講義をリアルタイムで参加・講師陣への質疑応答・主任講師による課題講評・講義アーカイブの視聴可能・定員あり
聴 講 生：安価で講義のアーカイブを閲覧・開講後でも申し込みが可能・定員なし

言語表現コース ことばの学校 基礎科 講義スケジュール

年月日	曜日	時間	講師
2026 年 10 月 8 日	木	19:30-	佐々木敦
10 月 15 日	木	19:30-	佐々木敦
10 月 22 日	木	19:30-	畠山丑雄＋佐々木敦
10 月 29 日	木	19:30-	谷崎由依＋佐々木敦
11 月 5 日	木	19:30-	友田とん＋佐々木敦
11 月 12 日	木	19:30-	梅崎実奈＋佐々木敦
11 月 19 日	木	19:30-	大滝瓶太＋佐々木敦
11 月 26 日	木	19:30-	暮田真名＋佐々木敦
12 月 3 日	木	19:30-	海猫沢めろん＋佐々木敦
12 月 10 日	木	19:30-	佐々木敦
12 月 17 日	木	19:30-	間宮改衣＋佐々木敦
12 月 24 日	木	19:30-	宮崎智之＋佐々木敦
2027 年 1 月 7 日	木	19:30-	絶対に終電を逃さない女＋佐々木敦
1 月 14 日	木	19:30-	難波優輝＋佐々木敦
1 月 21 日	木	19:30-	柳美里＋佐々木敦
1 月 28 日	木	19:30-	金子玲介＋佐々木敦
2 月 4 日	木	19:30-	斎藤真理子＋佐々木敦
2 月 18 日	木	19:30-	穂村弘＋佐々木敦
2 月 25 日	木	19:30-	鈴木涼美＋佐々木敦
3 月 4 日	木	19:30-	佐々木敦

ことばの学校 基礎科 講師プロフィール



海猫沢めろん(文筆家)

2004年『左巻キ式ラストリゾート』でデビュー。2011年『愛についての感じ』、2017年『キッズファイヤー・ドットコム』でそれぞれ野間文芸新人賞候補。後者で熊日文学賞受賞。2024年より版元「泡影社」を主宰。



梅崎実奈(書店員)

1983年東京生まれ。2012年から現在に至るまで紀伊國屋書店新宿本店にて文芸フロア、詩歌棚を担当。短歌ムック『ねむらない樹』(書肆侃侃房)にて歌集レビューを連載のほか、文芸誌にも多数寄稿。短歌アンソロジー『鴉は硝子のフリルで踊る』(河出書房新社)編。



撮影：伊藤信

大滝瓶太(小説家)

1986年生まれ。兵庫県淡路市出身。2018年第1回阿波しらさぎ文学賞を受賞。著者に『その謎を解いてはいけない』、『花ざかりの方程式』、『口笛吹きと音楽の犬』など小説作品の他、文芸批評中心としたエッセイ『理系の読み方』がある。



©文藝春秋

金子玲介(小説家)

1993年神奈川県生まれ。慶應義塾大学卒業。『死んだ山田と教室』で第65回メフィスト賞を受賞し2024年にデビュー。同作は第22回本屋大賞にもノミネートされる。他の著作に『死んだ石井の大群』『死んだ木村を上演』『流星と吐き気』『クイーンと殺人とアリス』『私たちはたしかに光ってたんだ』がある。



暮田真名(川柳人・作家)

1997年生まれ、東京都出身。川柳結社「蜂」主宰。句集『ふりよの星』『宇宙人のためのせんりゅう入門』、エッセイ集『死んでいるのに、おしゃべりしている!』、『ゆきどけ産声翻訳機 Best selection 100 現代川柳アンソロジー』。



撮影：増永彩子

斎藤真理子(韓国語翻訳者)

韓国語翻訳者。主な訳書にチョ・セヒ『こびとが打ち上げた小さなボール』、チョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジヨン』、ファン・ジョンウン『ディディの傘』、ハン・ガン『別れを告げない』など。2015年、第一回日本翻訳大賞受賞。2025年、読売文学賞(研究・翻訳部門)受賞。著書に『増補新版 韓国文学の中心にあるもの』『隣の国の人々と出会うー韓国語と日本とのあいだ』など。



鈴木涼美(作家)

1983年東京生まれ、鎌倉育ち。AV女優、新聞記者を経て『「AV女優」の社会学』で文筆家としてデビュー。著者に『ギフテッド』『悪い血』など。



絶対に終電を逃さない女(文筆家)

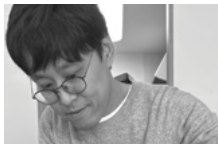
1995年生まれ、文筆家。エッセイ、小説、短歌などを執筆。単著に『虚弱に生きる』(2025年、扶桑社)、『シティガール未満』(2023年、柏書房)、共著に『つくって食べる日々』(2025年、Pヴァイン)がある。



© 浅野剛

谷崎由依(小説家・翻訳家)

2007年「舞い落ちる村」で文芸新人賞を受賞。著書に『鏡のなかのアジア』(芸術選奨文部科学大臣新人賞)『遠の眠りの』(文芸エクラ大賞)『百日と無限の夜』(織田作之助賞)他。訳書にイーガン『キャンディハウス』『ならずものがやってくる』、ホワイトヘッド『地下鉄道』、ブラワヨ『あたらしい名前』他。



友田とん(作家・編集者)

1978年京都市生まれ。博士(理学)。可笑しさを見つけるエッセイ・小説を発表しながら、ひとり出版社「代わりに読む人」を営む。著書に『手に負えない』を編みなおす(柏書房)、『『百年の孤独』を代わりに読む』(ハヤカワ文庫)、『ナンセンスな問い』(H.A.B)、『先人は遅れてくる』(代わりに読む人)などがある。



難波優輝(美学者)

1994年生まれ。立命館大学衣笠総合研究機構客員研究員、慶應義塾大学サイエンスフィクション研究開発・実装センター訪問研究員。修士(文学、神戸大学)。専門は分析美学とポピュラーカルチャーの哲学。近著に、『アンチ・スポーツの哲学』(朝日新聞出版)『存在のさみしさについて』(創元社)など。



畠山丑雄(小説家)

1992年大阪府生まれ。京都大学文学部卒。大学在学中の2015年に『地の底の記憶』(河出書房新社)で第52回文芸賞を受賞しデビュー。25年『改元』(石原書房)が第38回三島由紀夫賞候補になり、26年『叫び』(新潮社)で第174回芥川龍之介賞を受賞。26年10月に最新刊『福翁四題 その他の短編』(仮)が石原書房より刊行予定。



穂村弘(歌人)

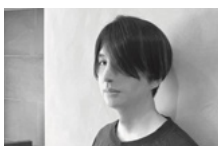
1962年札幌生まれ。短歌をはじめとして、評論、エッセイ、絵本、翻訳などを手がける。著書に『シンジケート』『手紙魔まみ、夏の引越し(ウサギ連れ)』『世界音痴』『もしもし、運命の人ですか。』『蛸足ノート』など。伊藤整文学賞、講談社エッセイ賞、若山牧水賞、アルスエレクトロニカ荣誉賞他を受賞。



撮影・新潮社写真部

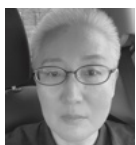
間宮改衣(小説家)

1992年大分県生まれ。2023年、「ここはすべての夜明けまえ」で第十一回ハヤカワ SF コンテスト特別賞を受賞しデビュー。同作のほか著書に『弔いのひ』(新潮社)、発表作品に「ルリ色のハね」(『GOAT Winter2026』)、「まいご犬のワルツ」(『小説トリッパー』2026年夏季号)など。ことばの学校第3期基礎科修了生・脚本コース第9期修了生。



宮崎智之(文芸評論家)

1982年、東京都生まれ。文芸評論家、エッセイスト。著書に『平熱のまま、この世界に熱狂したい 増補新版』(ちくま文庫)など多数。「随筆復興」を掲げて『随風』企画人を務めるほか、ちくま文庫の『精選日本随筆選集 孤独』、『精選日本随筆選集 歓喜』の編集も手掛けている。



柳美里(劇作家・小説家)

1968年、茨城県土浦市生まれ。高校中退後、東由多加率いるミュージカル劇団「東京キッドブラザース」に入団。俳優を経て、87年に演劇ユニット「青春五月党」を結成。93年『魚の祭』で岸田國士戯曲賞を最年少受賞。97年『家族シネマ』で芥川賞を受賞。2018年、福島県南相馬市小高区の自宅を改装し、本屋「フルハウス」をオープン。同年「青春五月党」を復活させる。2020年『Tokyo Ueno Station(JR 上野駅公園口)』で全米図書賞(翻訳文学部門)を受賞。2022年、第5回パークレー日本賞を受賞。

言語表現コース ことばの学校 第6期基礎科 募集要項

●受講期間:2026年10月8日(木)～2027年3月4日(木)

●受講資格:18才以上(学歴、経験の有無は問いません)。
講義参加・課題提出や学校からのお知らせを受け取る際にインターネット環境が必要となります

●募集人員:【正規受講生】100名 【聴講生】定員なし
※申し込み後の移動はできません。※聴講生はリアルタイム参加は出来ません

●講義場所:オンライン
＜オンライン講義での受講条件＞
・WEB上のオンライン会議サービスを使用するため、Wi-Fi環境を推奨します。
・DropboxやGoogleDriveなどのクラウドを使用することがあります。

●講義日程:毎週木曜19:30～22:30
※講義により延長の可能性があり。
※講師のご都合により講義日程や講師に変更の可能性があります。ご了承の上お申込み下さい。

●講義回数・受講料:全20回／【正規受講生】77,000円(税込) 【聴講生】44,000円(税込)
※一括納入が原則ですが、ご希望の方には分割払いでのお支払いもご案内をいたします。

●入学登録料:10,000円(税込)※映画美学校通年講座をはじめて受講される方のみ

※受講料の分割払いでのお支払いにつきまして
【正規受講生】受講料77,000円(映画美学校を初めて受講される方は87,000円)+分割手数料1,500円
40,500円を前払い(映画美学校を初めて受講される方は50,500円) 残額38,000円が分割払いになります。

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残 額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
4	4.20%	77,000	39,000	38,000	1,596	39,596	9,899

【聴講生】受講料44,000円(映画美学校を初めて受講される方は54,000円)+分割手数料1,500円
23,500円を前払い(映画美学校を初めて受講される方は33,500円) 残額22,000円が分割払いになります。

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残 額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
4	4.20%	44,000	22,000	22,000	924	22,924	5,731

(単位:円/税込)

●申込期間:正規受講生:7月30日(木)15:00から9月28日(月)20:00まで
聴講生:7月30日(木)15:00から2027年1月30日(土)20:00まで
※正規受講生は締切日以前に定員に達した場合、申込受付を締め切らせていただきます。

●申込方法:オンラインによる申込。映画美学校ホームページよりお申し込みください。

申し込みはこちら



●受講手続:申込書を映画美学校で受理後、メールにてご入金手続きの案内をさせていただきます。案内に従って、指定の期日までにお振込下さい。ご入金を確認された時点で申し込み受付完了となります。
※一旦納入された受講料は原則として返金できません。
※講義開始に関わらず、申込者の自己都合での解約による受講料の返金は原則お断りいたします。ただし、疾病等、本校がやむを得ないと認める事由についてはご相談に応じます(詳しくは映画美学校約款をご参照ください)。

映画美学校約款

Ⅰ 受講上のご注意

- ◎講義の写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
- ◎持病のある方、あるいは体調不良になられた方は事務局にご相談下さい。
- ◎講義の際に使われる各種の機材・備品などの取扱いは十分に注意して下さい。機材や備品を大切にすることは映画づくりの基本です。
- ◎館内での私物の管理は、各自で責任を持って行って下さい。賠償の責は負いかねます。また、受講生本人の不注意による事故や物的損害に対しても同様です。
- ◎当校は現役の映画人に講師をお願いしておりますので、講師のご都合またはやむを得ぬ事由により、講師やカリキュラムを変更することがあります。また、交通機関の混乱や、天災地変などやむを得ない事情で、カリキュラムを変更する事があります。
- ◎各コースのカリキュラムは、講師陣により日々検討を重ねております。そのため、要項に記載のカリキュラムが若干変更・修正される可能性もございます。変更・修正の際は理由を説明いたします。
- ◎急なカリキュラムの変更等、当校より緊急連絡をさせていただくことがございます。ご登録の氏名・住所・連絡先等に変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。
- ◎受講希望者が一定の人数に達しないクラスは、開講を見合わせる場合もあります。

Ⅱ 受講取消の扱い

- ◎いったん納入した受講料は、原則としてご返金できません。各講座の予算は講師陣と事務局が協議して慎重に確定いたしますので、その後のキャンセルはカリキュラムの実現に重大な支障を来します。ただ、病気や転勤など、当校がやむを得ないと認めた場合は、開講日以前であれば下記の計算方法でご返金いたします。その場合、医師による診断書や勤務先の辞令（コピー可）など、受講不可能となった事由を証明する書類をご提出下さい。

Ⅲ 受講開始日より起算した返金額

30日前まで：全額の90%

29日前～14日前まで：全額の75%

13日前～7日前まで：全額の50%

6日前～1日前：全額の25%

なお、講義開始後のお申し出は、お受けできません。

Ⅳ 安全面について

- ◎映画の撮影時には、スタッフ、キャストともに目の前のことに集中するので、事故が起こりやすいものです。事務局から配布される注意事項をよく読んで厳守し、撮影にかかわる人たち全員が安全面に配慮することで、絶対に事故を防ぐようにして下さい。将来、講座修了後も、映画を制作し続ける限り、一番大切なことです。なお、注意事項に書かれていないことは、遠慮なく事務局にご相談下さい。
- ◎非常口、避難通路などは事前にご確認下さい。災害が発生した場合は、必ず係員の指示に従って行動して下さい。

Ⅴ 著作権について

- ◎講義内で行われる個人課題やドキュメンタリー・ワークショップの編集講評の対象となった作品を除き、本校のカリキュラムの一環として制作された画像、動画、サウンド等の著作権は基本的に映画美学校に帰属します。従って、それらの全部又は一部および、授業風景等を録画・録音したものの全部又は一部を、本校の広報・業績・紹介目的のため、任意かつ無償で利用することがあります。その際、著作者の氏名の表示を省略することもあります。諸般の事情により支障のある方は、開講してなるべく早い時期に事務局にご相談下さい。なお、利用にあたっては、第三者の著作権、商標、名誉、信用、肖像権その他の権利を侵害しないように細心の注意を払います。

■お申込み・お問合せ

特定非営利活動法人 **映画美学校**

〒150-0044

東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS B1F
(渋谷・文化村前〈松濤郵便局前〉交差点左折)

TEL 03-5459-1850 FAX 03-3464-5507

<http://www.eigabigakkou.com>

受付時間(月～土) 12:00～20:00

